

¡Hola amigos!

RとNの Málaga からの手紙

(027号)

皆さんこんにちは。

このページは、私達のスペインでの日々の暮らしを友人・知人の皆さんに知って頂こうと思って開きました。 ですからごく私的なもので、読者のかたも大なり小なり私達をご存知だという想定で作成しています。そのつもりでご覧下さい。

各項の更新は不定期ですが、なるべく毎週末迄に何らかの更新をするつもりです。

更新日を確認の上各項目を選択してください。

2003年12月19日 R & N

目次	更新日
身辺雑記	2003年12月19日
食べある記	2003年12月19日
買い物百般	2003年12月19日
エクスカーション	2003年12月19日
ビーノあれこれ	2003年12月19日

ご注意 : 各項目のファイルは更新日から一ヶ月を経過したら削除します。

悪しからず。

* 身辺雑記 *

「新・大陸発見」ノ巻 2003年12月19日 更新

10日からずうっと続いていた晴天は16日までで終り、17日は雲が多くなり夜半からは雨、18日明け方は雨まじりの強風が吹き荒れて、その後は又青空に戻りました。こうやって活字にしてみると、帯状高気圧に覆われて暫く続く晴天と、その後の低気圧の通過に伴う雨天と強風の様子がはっきり分かります。今回はひと周期が9日でした。でも今年の天気はそんな風に安定した変化では済みそうもありません。いつ崩れるか予想がつかないのです。

地元のテレビ局はほとんど天気図を出してくれませんが、NHK的なTVEという局だけが天気図入りで解説するだけ、それも夜10時だけです。この時間帯はフト・ボールをみていることが多いのでツイ見過ごしてしまいます。長年、天気図とニラメッコの生活だったので、明日は晴れるよ、降るよ、といわれてもハイそうですか、とはいきません。何故そうなるのか、天気図の裏付けがないと落ちつかないのです。

今年は寒い、ともう何回も言ってきました。そうは言っても快晴の日の日中はさすがに一気に暖かくなり、そうなるとうーさんもバーさんも短パン・Tシャツ・又はノー・スリーブです。やっぱり、ここはこうでなくちゃあね。寒いコスタ・デル・ソルでは話になりません。

先週末、夕方、寝室のシャッターを閉めていたNが、「島が見えてる」と言っています。海がチラットだけ見える寝室です。「この前には島なんかネーよー」とR。HP製作に熱中してました。「でも、なんか見えるー」とまだ言っています。

エエッ、そりゃアフリカだわなー、と腰をあげました。ウーン確かに見えています。間違いない、この方角、ほかに陸地はありません。

去年の冬はもっと熱心にこの窓から海を見てたんです。でも、ここからアフリカが見えたことはありませんでした。初めてアフリカを見たのは、ミハスという近くの山の上にある町へ行った時でした。そういえば、あれも12月だった。



デジタル・ズーム最大限で撮影したので画質が荒くなりましたが、こうしないと何が写ってるのか分からないほどの小さいアフリカ大陸でした。

手前のひよろひよろの糸杉の尖端の1センチぐらい上が水平線です。普段はそこで終わりなんです。正確なコンパス(羅針盤)など有りませんから、はっきりした事は分かりませんが、この窓から見える海の方角はほぼ真南の筈です。そうすると、これも大雑把ですがその方角のアフリカの山迄約170キロ。海上では高い山は200キロ以上で見えることはシバシバ有りますから、空気さえ澄んでいる時なら十分納得の距離です。ましてや、ここは海岸までわずか1キロ、周りには工場も無く、条件は海上とほとんど変わりません。日本でだって、冬場、房総沖で冠雪した富士山がくっきり見える

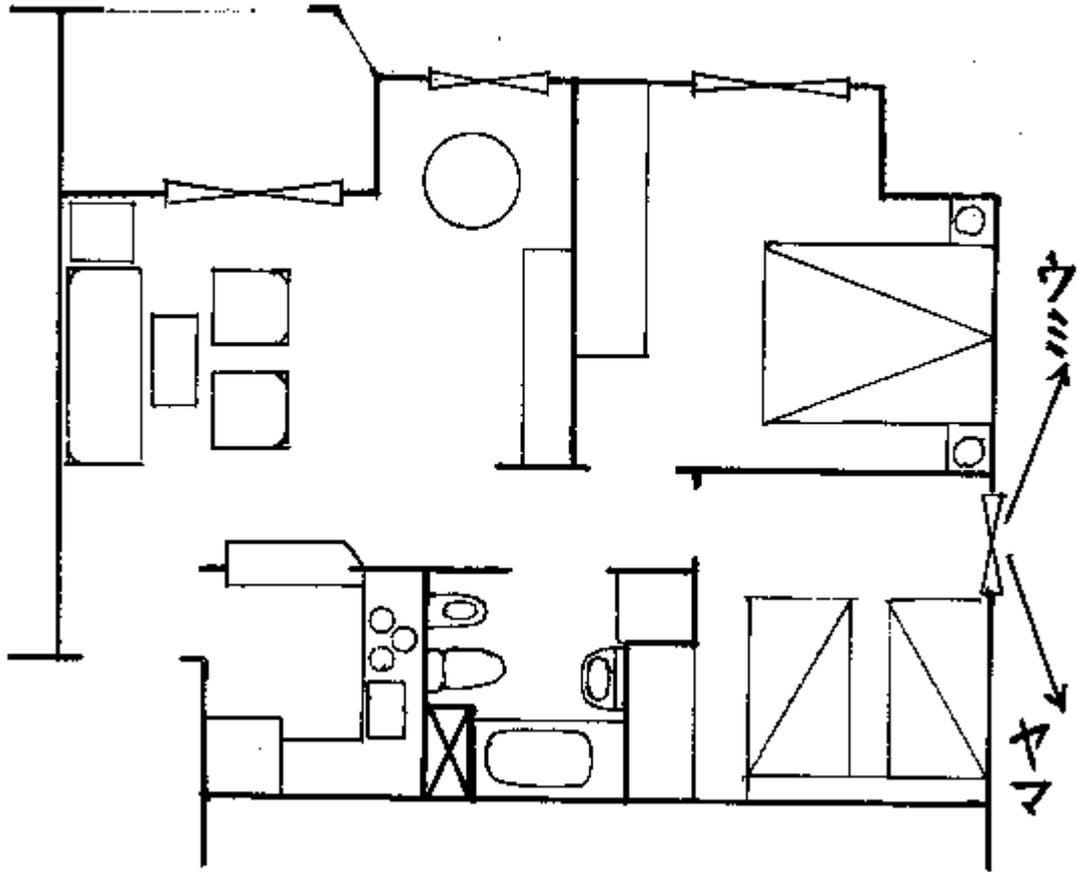
ことは良く経験するところです。コレも距離は200キロ前後でしょう。

去年は何故見えなかったのか？ 今年の冬はやっぱり空気が澄んで、ヨリ寒いのか？

その後は毎朝毎夕この海を睨んでいます、それっきり、もう見えません。

ここでついでに私達がどんなところから海を見ているか、ちょっと御見せしましょう。

ごく大雑把な見取り図です。



ざっとこんな感じです。二人で住むには十分の広さ。これ以上あったら掃除が面倒というもの。前面は大体南南東向きでしょうか。前も横も道路。

夏の間はウルサイのさえ我慢すれば、窓全部を開けると入り口のドアは閉めたままでも風が吹き抜けます。角部屋のいい所。円卓脇の窓は腰までですがその他は天井から床まで一杯に開くので風量は十分です。

ツインの部屋の窓は、海が細くですが少し見えるし、裏山も見えて観天望気には貴重な開口です。アフリカが見えたのもここからです。ここから見える裏山に雲がかかったら天気予報でなんと言っていようが、外出には傘必携。

このHPを書いているのは全体のほぼ中心、壁際のキャビネットの右端。パソコン・デスクが欲しいところですが、とにかく、余計なものは持つまい、買うまい、我慢我慢です。タルヘタが取れて、カディスへの引越しが実現したら、是非大西洋が見渡せる所へ行きたい。トスカの前の海を見てますます思うようになりました。

毎日、沈む夕日を眺めながらグラスを傾けたい、それが今一番の望みです。***

食べある記 (及びタパス・デ・ラ・casa)

「デサユノ」の巻 2003年12月19日 更新

desayuno そのまんまローマ字読みで、日本語の発音のまんまで十分通用します。こういうのがスペイン語の親しみやすい所で、この単語に限らずローマ字風のつづりはケッコウ沢山あって、それが文法の難しさにも拘わらず日本人にも馴染みやすい理由のひとつでしょう。英語圏では、簡単英会話、なんていう即席会話集のルビを棒読みしても、まず誰にも分かってもらえない、とっていいくらいですが、スペイン語は通じちゃうんですネー、コレが。

もっとも、会話集に出てくる場面の想定は、多くの場合日常の必要度とはかけ離れていて、会話集が役に立たない事は英会話の場合と同様です。実用という点では日本で安い値段で売っている六ヶ国語電子辞書、多分5～6千円の筈ですが、このほうが軽いし、かさばらないし、よっぽどお奨めです。自分の言いたいことは、工夫さえすれば大概一語で済むものです。“if” という超短い手紙もありましたね。それは何語だって同じでしょう。目は口ほどに・・・なんてこともあるんだし・・・。

一方、相手の言っている事が分かるかどうかは、全く別の次元の話で、Rなどはまず相手の言っている事が聞こえないことから、???が始まります。Nの日本語でさえ時々聞き取れないんですから、外国語においてオヤ、です。たとえ聞きとれても、それが何を意味するかを理解するのは、また次の難問。

いずれにしても、会話集が役に立たない事は何語でも同じ、相手が会話集と同じように答えてくれる、なんてことは期待するほうがおかしいですよ。

この場合も、いざとなれば六ヶ国語辞典の出番で、自分で辞書を入力するばかりに用意して、相手に言いたい単語をキー・インしてもらえばいいんです。相手と自分が同じフィーリングを持っていれば以外にスムーズに分かり合えます。ここが肝心な所で、分かり合えるか否かは語学力の問題とは遠く離れた問題ですね。たとえ同じ言語を話す者同士でも、百万言を費やしても分かり合えないことはママあることです。言葉を「意思の疎通を図る道具」と割り切ってしまうと、そう多くの単語は必要ないと思っているんですが、どうでしょう。

さて、デサユノです。朝食です。朝餉です。三食つきのアパルタメントのデサユノはざっと次のようなものです。

* パン pan : 長さ15センチくらいの小さいフランスパン(スペインでフランスパンと言うのもおかしいものですが、日本でフランスパンと呼んでいるもの)。同じくらいの大きさでやや扁平なものを水平に二つに切ったもの、ボカディーヨ bocadillo(スペイン風サンドウィッチ)用、やや柔らかい。

* セレアル cereal(シリアル) : 三種。

* ベルドウラ verdura(野菜) : トマテ tomate(トマト)、レチューガ lechuga(レタス)、セボーヤ cebolla(タマネギ薄切り)、ペピーノ pepino(キュウリ)。

* ケソ queso(チーズ) : 超薄切りスライス・チーズ。二種。

* ハモン・コシード jamon cocido(生ハムではない普通のハム) : コレも超薄切り。

* ウエボ huevo(卵) : フリート frito(目玉焼)、レブエルト revuelto(スクランブル) ティビオ tibio(半熟) など日替わり。たまにバコン bacon カリカリベーコン。

* チューロ churro : これぞスペイン風朝食の定番、ごく軽いフワフワの塩味ドーナツと思ってください。ココアに浸して食べるのが本格スペイン風。らしい。

* フルータ fruta(果物) : プラタノ・カナリオ plátano canario(カナリー・バナナ) マンサナ・ベルデ manzana verde(青リンゴ)、ナランハ naranja(オレンジ)。

* レーチェ leche(牛乳) とヨーグル yogur(ヨーグルト)。

* カフェ café : ソロ solo(ブラック)、コルタード cortado(ミルク入り)、コン・レーチェ con leche(カフェ・オ・レ)、カプチーノ capuchino の四種。

* スモ zumo(ジュース) : トマテ tomate(トマト)、ポメロ pomelo(グレープ・フルーツ) ピニャ piña(パイナップル)、ナランハ naranja(オレンジ)の四種。

こんな中から好きなものを好きなだけ選べばいいんですが、それとなく見ているとケソとハモンばかりテンコ盛りの奴もいるし、どういうつもりかパン山盛りもいるしボカディーヨを四つ五つ作っている奴も。私達は常に野菜中心、腹八分目。***

* * * * *

* 買い物百般 *

「日本食材」ノ巻 2003年12月19日 更新

外国に住んで日本製の物、特に日本食材を欲しがると、ろくな事にはなりません。まず第一、チョッとそこのスーパーへ行って買ってくるというようなわけにはいきません。日本人が大勢住んでいる大都市、又は日本へいった事のある人が大勢いるやはりコレも大都市、でなら、探す所さえ間違えなければかなり多くの種類のものが手に入ります。Rも現役の頃はアチコチの港で、へえー、こんなものまで、と思うほど多彩な日本食材を買う事が出来ました。その頃はまだ日本人船員の数も多く、日本船相手だけでも十分商売が成立したんですね。

しかし第二の問題としては、たとえ純国産の食材が買えたとしても、まず例外なく高いことは間違いありません。そりゃそうですよね、輸送費だってバカにならないし、食材ですから賞味期限内に売らなきゃならない、売れなきゃ丸損です。そういうリスクを抱えて売るんですから、高くなるのは当然です。

ここへ来てから、この周辺のスーパーにはほとんど日本食材がないということはすぐ分かりました。たまに日本語で書いてあるラベルを見つけても、製造国が日本でないものがほとんどで、日本の会社のもので海外工場で作っている、従って海外の味になってしまっているものばかりです。又は中国産の「日本製」か。

今までに見つけた純国産又は準国産で味は「純国産」並というものはわずか2～3点でした。清酒白鹿（純国産）、キッコーマン醤油（キッコーマン・デュッセルドルフ販売）、絹ごし豆腐（森永カリフォルニア製）この三つは合格。但し値段は日本の2～4倍でしょうか。このうち常時欲しいのは醤油だけ、後は無ければ無くてもよし、少々難ありを我慢すれば中国製又は韓国製のまがい物でも何とかなっていました。又醤油はヤマサの純国産品も見つけてあります。

そんな中で、今までどうしても見つからなかった、そして是非欲しかったものの一つを最近になってやっと見つけることが出来ました。



それは左手前の「おみそやさん」。そうです味噌だけはどうしても見つかりませんでした。マラガ市の郊外に中国食材の間屋があって日本食材も少しある、ということを知ったので、早速行ってみました。電車の終点マラガの三つ手前の淋しい無人駅から徒歩30分位。昼間でもほとんど通行人には会わない、工場や配送センターや卸問屋等が続く寂しい道です。途中で富士通の大きい工場がありました。

そこは全く小売の事など考えてない卸問屋で、梯子を使わないと、とても見れない三段の金網棚に段ボールに入った食品が天井まで山積みになっていました。小売もしてもらえますかと聞いても、全く無言。勝手ニ見ナ、という感じで手を振っています。

超々々無愛想。ケツと思いましたが、旨いもの欲しさで、ここは我慢、また我慢。何しろ段ボールに入ったまま積み上げてあるので、ナニがドコに有るのかさっぱり分かりません。漢字と英語、たまにスペイン語、もっとまれに日本語がプリントされた段ボール箱を見上げながら、想像力を総動員して中身を推測しながら、はしごを持ってウロウロと一つ一つ見て回りました。

卸問屋だけあって、商品点数は今までに見てきた街中の中国食材店の比ではありません。日本語がプリントされた包装の食品も何点か見つけました。しかし、よくよく見

ると、どうも怪しげです。見れば見るほど日本の物には見えません。

例えば、手前中央、味噌の右隣の生うどん。はっきり「日本製」とプリントしてあるんです。だけど、普通日本人はうどんの事は「うどん」といいますよネ。百歩譲ってもせいぜい「饅頭」です。いまどき「うどん」に饅頭なんて字を当てる人はそう多くない筈です。まして、「烏冬」なんて字、誰が読めますか？ 難読パズルにでも出てきそうな漢字です。でも、この商品名は「博多烏冬」です。更に原産地を見ると、日本・九州となっています。商品名が博多だから、九州、で確かに符合してはいますが

普通の日本人が原産地を日本・九州と言うのでしょうか？

それとも九州・博多の人たちは本当に「烏冬」という字を当てているのでしょうか？ 中国語は全く知りませんが「ウドン」という「音」を漢字で表すと烏冬になるのでは

ないかということは容易に想像できます。可口可乐の亜流ではないのか！

味噌の後ろの餅。コレは日本のものとは言っていないですが、「台湾品牌」とプリントしてあります。重ねて言いますが中国語は知らないまでも、コレは言うなれば「台湾印」と分かります。台湾製とまでは言わなくても、台湾風だよとか、台湾の味だよと暗にほのめかして、購買者が勝手に台湾製だと錯覚してくれれば・・・という作為が感じられます。私達もコロッとだまされました。うちへ帰って天眼鏡でよくよく見たら、小さく上海という字が読み取れました。左端のカップ・ラーメンは、香港とはつきり名乗っていてそれは良かったんですが、味はイマイチ。コレは私達も期待はして

いなかったのもそれなりに納得。結局、今日の収穫は残る五点。

まず、「おみそやさん」マル。味はチョットくどい感じですが、間違いのない日本の味で、調味料として少量ずつ使う分にはOK。味醂と清酒月桂冠は文句ナシ。もっとも私達は、清酒を「酒」として呑む事はなく、あくまで調味料として使うだけです。日本酒党には不満かも知れませんが。その前のプラ・パックはガリ、甘酢しょうが。正真正銘の日本製で、これもマル。最後は米。「日の出米」と銘打ったイタリー米です。何ゆえイタリー産「日の出米」なのか訳がわかりませんが、透明感のあるいい米でした。味も上々。二重マル。横文字表記はなぜか SHINODE MAI。コレって江戸訛りでは

ないのかな、円歌なんかの落語によく出てくる、ウチの「シト」って。***

エクスカーション

「カナリア諸島」ノ巻・その四 2003年12月19日 更新

(四日目・スペイン最高峰と白頭鷲)

テネリフェは、大雑把には二等辺三角形だ、と前に言いましたが、二等辺はそれぞれ約85キロ、底辺は約50キロで、離島というイメージよりはるかに大きい島です。しかし、スペイン本土イベリア半島の一番近いところ、大体カディス辺ですが、其処から海上約1100キロと言いますから、やはり離島である事は間違いありません。

不思議なことに、この離島にスペインで一番高い山、テイデ Teide があります。スペインという国は欧州ではスイスに次いで平均標高が高いんだそうで、地図でざっと見てもシエラ・ネバダ山脈やフランスとの国境ピレネー山脈には3000メートルを超えるところがチラホラしてますし、中部から北部にかけては2000メートル級の山岳地帯がずらっと並んでいます。

にも拘わらず最高峰となるとこの離島テネリフェの山、テイデです。ラ・パロマやイエロなどカナリア諸島のほかの島々も面積に較べて標高が高いのが目立ちます。それはここが伊豆七島やハワイ諸島と同じ火山列島のせいでしょう。

今日はそのテイデの火口原の探訪です。この山の火口は長径が16キロもある広大なもので世界最長なのだそうです。火口の溶岩原は標高平均約2000メートル、パラドール(国営ホテル)も標高2200メートルの溶岩原の真っ只中にあります。

全国86箇所にあるパラドールの全てが三つ星から五つ星という中で、ここは唯一、二つ星なんだそうです。今回私達は横目で睨んで素通りでしたが、唯一の二つ星パラドールはどんなものか、チョッと泊って見たい気にさせる所です。

さて、昨日と同じ朝八時、同じ場所でバスを待ちました。今日もどうやら相客はスペイン人だけの様な気配です。待っていたのはチョッと多目の十数人、若い人も結構混じっています。バスが着くと、案内人も若いオニーさん、片言なら英語もOK。



右上のプエルト・デ・ラ・クルースは分かりますね。その南東、ラ・オロタバを
通って一気に山へ登って行きます。昨日イコッドへ行くのに通った黄色の山道は谷を縫
って小さくジグザグでしたが、今日の道は黄色と緑の二重線、大きいジグザグです。
図の中央の左下に **Pico de Teide** ピコ・デ・テイデと書いてありますね、そのテイデ
Teide の綴りの **i** と **d** のすぐ下に 3 7 1 8 と標高が書いてあって其処がこの山の頂
きです。ピークのすぐ右、栗のイガのような展望台の印があり、右下の方から其処ま
で鉄道のような直線が入ってますが、コレが乗りたかったロープウェイです。
ロープウェイの山上駅は言うなれば富士山の宝永山のような場所にあって、其処の標
高は 3 5 5 5 メートル。其処へ行きたいのは「山々」だったんですが、何しろ R は高
山病に極端に弱く、とても耐えられそうにないのでやむなく諦めました。料金が高い
のはダメ、山が高いのは、もっとダメ。



地図上でオロタバの町と左下方の岩の絵を結んだ線の中に丸印をつけた展望台マークがありますが判るでしょうか？ この写真はその展望台からのもの。下界の眺めも悪くありませんでしたが、このようにテイデの山全体が眼前、という迫力は圧倒的でもっと大画面でご覧いただけないのが残念です。勿論、どんな大画面の画像でも実物のもつ威容は表現しようもありません。手前、色変りの部分が外輪山の稜線です。

Rは富士山の南麓に生まれ育ち、少年期までは日毎その姿を眺めて暮らしました。富士山も四季それぞれに、日毎どころでなく時々刻々姿を変え、色を変え見飽きる事はありませんでした。この山の標高は富士山より数十メートル低いですが、孤峰独特の犯し難い雰囲気を感じさせる、富士山に勝るとも劣らないすばらしい眺めを見せてくれました。

この日はご覧のように一点の雲もない快晴。私達がこの島にいた間では一番のいい天気で山へ行くにはまたとない日でした。ここでも私達はツイていました。昨日のように雨模様ではとてもこんな姿のテイデは見れなかったでしょう。この展望台の標高は多分千五～六百メートルでしょうが掲示板には標高の表示はありません。高山植物のことは結構詳しく図解してあって、それには等高線まで入れてあるのに肝心の現在地の標高はナシ。誰だって、デハ、ここはどの位だろう、と知りたくなるはずなのに。



展望台から更に登ってイヨイヨ火口原に入ります。地図で展望台の少し南、走行距離の起点マークのあるT字路が判りますね？ その辺からが火口原の始まりです。T字路の少し南、赤線で囲った二列の綴りが見えると思いますが、其処には火口原入り口のビジター・センターがあって回りにはバルや土産物屋もあります。この山は火口原を含むこの一帯全てが国立公園になっているんです。建造物らしいのはここと、後で出てくるパラドール、ロープウェイの駅以外は見当りませんでした。となれば当然どのバスもここでカフェ(トイレ休憩)。上の写真はバルの駐車場から撮ったものですが、頂上のすぐ左にぽつんと出っ張りが有るのが判るでしょうか？ ロープウェイの山上駅です。さっきの展望台では周りは鬱蒼とした松の原生林でしたがここではもう小さな灌木とサボテンと草が点在するだけ。



コレが前の写真のクローズ・アップ。ロープウェイも良く見えますね？
ところで話は飛びますが、イギリス人はロープウェイと言わず、ケーブル・カーと言
うらしいんですね。頑として言い張ります。じゃあ、日本でケーブル・カーと呼んで
いる線路の上を引っ張るのはナンだ？ と聞くとそれもケーブル・カー。オックスフ
ォード英英辞典もそのように言っていますから仕方ないですね。で、ロープウェイを
ひくと我々が考えているロープウェイが出てきます。英語って不便なモンです。
次の写真はテイデの反対側。いたる所にある噴気口の跡です。稜線は火口原を取り巻
く外輪山。以後、火口原の中央に進むにつれ景色は荒涼としたものになります。





上の写真は左のビジター・センターの裏。下の写真はここから火口中央に向かってバスで5分ほど走った所。もう其処には草木も生えない溶岩原が広がるばかり。こんな抜けるような上天気の時ですら物寂しくなるようなものすごい景色が続きます。この溶岩原のスケールの大きさは今まで見たことのないものでした。スペイン版「鬼押し出し」ですがその面積がすごい。

遠く、溶岩原の所々に、踏み跡の小道があって歩いている人も見えました。

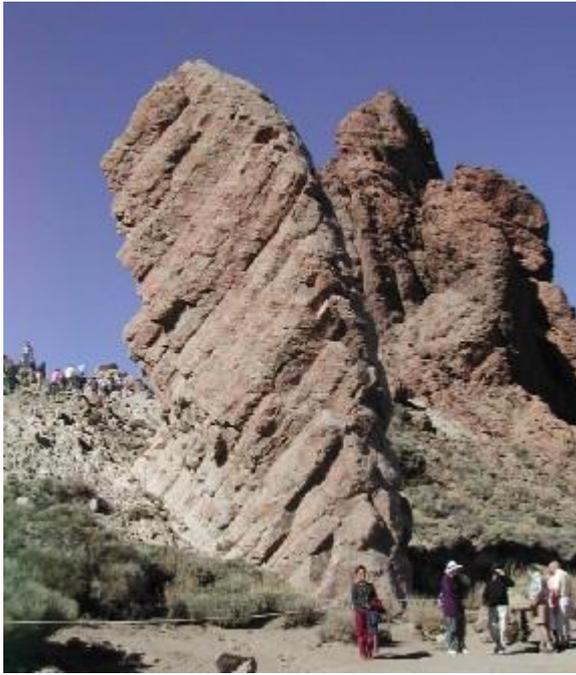


カフェのあと、バスは溶岩原をゆっくり上ったり下ったり、一見平らに見える火口原も実際にはかなりの起伏があります。30分位そうして草木もない石ころだらけの景色のなかを走った後、いよいよこの広い火口原でも極めつけの場所に着きました。

コレがこのテイデ山のシンボルともいえる岩、**El Roque Chinchado** ロケ・チンチャードと呼ばれる岩です。この回りには奇岩怪石がごろごろ、それぞれに名前が付けられているのは日本の急流くだりなどで見る岩の命名と同じです。

この岩の名前のイワレをガイドは当然スペイン語では説明したでしょうが私達はサッパリ。**chincar** チンチャール(困らせる)という動詞があってその過去分詞はチンチャード **chinchado** となります。そう思ってみれば見る角度によっては「困らされた」当惑した人、の横顔に見えないこともありません。昔は高い鼻も有ったのかも知れませんか。何回も繰り返された噴火の跡が溶岩の色の層からもうかがえます。





こんな風に巨石怪石がごろごろ。右の奴なんか、日本ならさしずめゴジラ岩でしょう

ね。この他にも **Zapato de la Reina** 王妃の靴、なんてのも有りました。

下の写真、手前の中央やや左に小道があって芥子粒ほどの人が三人歩いているのが判別できるでしょうか？ それから右の岩の大きさを想い浮かべてください。その巨石の向こう、一見樹木が密生しているようにも見えますが、ことごとく溶岩です。



前の写真もう一度良くご覧下さい。溶岩原のはるか向こうに外輪山があってその更に向こうに雲がかかっていますね。下界から見ると山の頂上が雲に隠れて見えないことが良くありますが、其れは外輪山の山腹、標高で言えば千から二千メートルあたりにかかった雲のためなのだと考えられます。この火口原の高さまで来れば雨雲ははるか下なので、ここではこんな風にピーカンの上天気が多いのではないかと？ 私達が格別ラッキーだったわけではないのかも知れません。飛行機に乗っていると雲はみんな下になるので常に快晴ですね。程度の違いはあってもそれと大体同じ事がいえるのではないかと思います。ここの澄み切った空気と、地面には土らしきものがあるのに植物はサボテンのたぐいしかない事からもそう考えられます。

これら一連の写真をとった場所からすぐ近いところに例の珍しくも二つ星というパラドールがあってケッコウ繁盛しているみたいです。火口原トレッキングの基地としては最適ですね。また夕暮れと夜明けの空に映えるテイデを見たければここに泊るのが一番。それに夜は降るような星が瞬くだろうし、ホテルの星の数なんか問題ではないでしょう。最後にもう一度シンボル・ロックとピークを見て、岩っ原は終り。



次の地図をご覧ください。奇岩怪石の集まりロス・ロケス **Los Roques** が上部中央ですね。そのすぐ右、道路を隔てて反対側に白抜きのPの字が見えると思いますが、コレがパラドール。ここから出発する時、バスの乗り込んでから気が付いたんですが、Pの字のすぐ右に赤字綴りが見えますね、コレ、**Sanatorio** と書いてあるんです。サナトリウムですね。バスの走ったところからは建物は全然見えませんでした。地図で見ると細い道路もそこで行き止まり。用のない車が通過しないように盲腸線です。もっとも、この施設が今でも使われているのか、現存しているのかは不明です。何せこの地図、Rが始めてこの島に来た時のもので1978年発行です。今でもリッパに役に立っています。ダカラ地図って好きです。それにしても物持ちイイでしょう？



さて、火口原を後にして次は白頭鷲です。地図の中央付近 **Vilaflo** ビラフロールという小さな村までは緑と黄色の二重線の道、日光いろは坂も顔負けのくねくね道路。

ビラフロールの下はもっとすごそうですがバスはそこで右へそれてヤレヤレ。この村

は標高1350メートルでスペインでは一番高い所にある自治体だそうです。

次の目的地はこの村から海岸までの中間よりやや下、**Arona** アローナという所にある動物園・兼・植物園・兼・遊園地みたいなところで、子供も大人も年寄りもひとつからげに絡めとろうという遊び場です。一番の呼び物は白頭鷲のショー。白頭鷲はご存知の通りアメリカ合衆国のシンボルで、紋章にもなってますね。

*

Rは以前、カナダのブリティッシュ・コロンビア州のとんでもない田舎、ベラ・クーラ **Bella Coola** という所へ原木積み取りに行ったことがあります。其処は氷河で深くえぐられたU字谷のどん詰まりで、港らしい施設はゼロ。船を繋ぐ係留ブイがぽつんと有るだけ、最寄の村落まで林の中のケモノ道みたいな所を小一時間歩かなければなりません。

その道を歩くとなんだか知りませんが、羽虫がいっぱい飛んでいて顔に当たるんですね、その気分の悪いこと。丁度雪解けの時期で羽虫も一斉に羽化したのでしょう。暫く歩いてやっと少し広い道に出ると、四駆のトラックに乗ったオッサンが通りかかって、この辺は熊が出て危ないからノリナ、と言うんです。そのときは友達通信士と一緒にいたんですが、二人で顔を見合わせてしまいましたネー。そのオッサンこそ熊も遠慮するかというものすごい面構え。

有り難く乗せてもらって、村に着き、とりあえずビールと思ったら、ここでは夕方五時までアルコールは禁止だというんです。これにはガッカリ。だってまだ昼前です。

*

話はぶっとんでしまいましたが、この道々、白頭鷲を見たんです。野生の白頭鷲を見たのはそれが最初で最後です。鷲も雪解けで繁殖期に入っていたのでしょうか、何羽も見ました。動物園なんかにいる薄汚れた色ではなく、黒はあくまで黒く、頭と尾の白は輝くような白さ、威厳すら感じるような立派な鷲でした。なるほど合衆国がシンボルにするわけだな、と思いました。



コレが白頭鷲の雌雄。この鷲がスペインに、又はカナリア諸島に生息するのかわかりませんが、鷹匠のような技術はこの国にも有る事はテレビで見て知っていました。次の写真はこのパルケ・ラス・アギラス **Parque Las Aguilas**（鷲公園）のパンフレットですが、右下に写っている人が言わば鷹匠頭で、10人ほどの助手と数十羽の猛禽を意のままに動かします。ちょっとはつきりしませんがこの写真に写っているのはハゲワシが大部分です。白頭鷲もこんな風に円形に座った観客の頭上すれすれの所を飛んで鷹匠の与える肉を取りにきます。大型の猛禽が自分の頭を狙って飛んでくるようで、観客はみんな首をすくめていました。中々の迫力でした。この公園の中でこのショーだけは大人向けという感じです。あと園内アチコチにある売店のビアー・ポンプ。日本の動物園にはビアー・ポンプはありませんよネ。***



* V I N O *

「フェリス・ナビダー (ド) 」 2003年12月19日 更新

Feliz Navidad メリー・クリスマスのスペイン語版です。**Felices Nabdades** と複数形の言い方もあるようです。めでたさも複数で、この方が幸せ一杯の感じが強いですね。また、メリー・クリスマスのもう一つの言い方、**Felices Pascuas** フェリセス・パスクワスというのもあります。**Pascuas de Navidad** パスクワス・デ・ナビダー(ド) というのはクリスマスから1月6日の公現祭までの期間をひっくるめて言うらしいです。ですからこの言葉はクリスマスも新年もひっくるめてオメデトウなんでしょう。

まだ、ほかの言い方もあるのかも知れませんが、辞書で見るのはこんな所です。この時期、町はスーパーも各商店も街路もすっかりクリスマスの飾り付けになっています。けれども気忙しさを感じないのは、私達自身、歳末でもコレと言ってしなければならぬことを何も持たないからかも知れません。

もう一つの理由はジングル・ベルでしょう。あのセカラしい曲は全く聞えません。あの曲は元々アメリカ民謡なんだそうですが、クリスマス前になるとアレをガンガン流すのはアメリカ文化なんでしょうか。この辺のスーパーで最近よく流す曲は賛美歌が

主で、たまにホワイト・クリスマスが聞えるくらい。静かです。

スーパーの売り場も、飾りつけはやや華やかですが、特に客が多いわけでもなく、日本の歳末商戦を知る私達としては、コンナンでいいんだろうかと要らぬ心配をしたくなる位です。目立つのは例のトゥロンなど、クリスマス用の甘いお菓子とハモン・セラノ、それに発泡ワインのカバ cava。

何回も言ってきた事ですが、キリスト教徒、特にカトリックのスペインの人達にとって、クリスマスはお祭り騒ぎをするものではなく、家族ないし近親者だけで静かに祝うモノなのでしょう。プレゼントの交換はとても大事な事のように、いい年のオジさんがなにやらメモがきを片手に、真剣なまなざしでクリスマス用のお菓子売り場をうろついているのも見かけました。今日のテレビではクリスマスの世帯平均支出は、地方によって少し差がありますが、700から800ユーロ位と言っていました。大半はプレゼント用品に化けるんでしょうね

スペインの人たちにとっての元旦は、一年の初めという意味では私達仏教徒全く同じでしょうが、宗教行事としては1月6日が特別大事らしいので、大晦日のカウントダウン以外、元旦は案外静かに過ぎてゆきます。キリスト教の行事には詳しくないのでこの辺にしておきましょう。ついでに言うと、新年オメデトウはフェリス・アニョ・

ヌエボ **Feliz Año Nuevo** です。

日本の「新年オメデトウ」の言い方の多さは多分世界一ではないでしょうか。中国語は知りませんが、中国語も多そうですね。でも、日本では漢字だけの言い方も沢山ある上に、カナ混じりも多いですからどう考えてもやはり一番多くの言い方があると思えます。外国人にとっては、日本語はかなり難しい言語だろうと、日本人である私達ですらそう思います。「敬語」という日本人でさえあやふやな言葉もあるし・・・。

*

去年の年末・年始を通じてこの辺のスペインの人たちが一番賑やかに沸き立ったのは1月5日の夜でした。私達にとっては初めての経験でしたが、暗くなってから楽隊の音がえらく賑やかに聞えるので、外へ出てみました。すると町が目抜き通りは既に人が一杯に溢れていました。

何事が始まるのかと私達も雑踏にまぎれて待ってみました。そのうちパレードがやって来ました。綺麗に飾り立てたフロートに着飾ったセニョリータが大勢乗ったものやなにやら宗教的な意味があるらしい古い衣装を着た一団、オモチャの兵隊のような楽隊や鼓笛隊、地元のエライさんらしいジー・バー、いろんな衣装のピエロ、等など。そして、驚いたことに、パレードの誰もが大きな袋に一杯の飴を持っていて沿道の見物人に向かって、文字通り雨あられのごとく撒いてゆくのです。

Rの田舎、富士山麓では新築の上棟式には餅を投げることはありましたが、飴を雨あられのようにばら撒くパレードというのは見たことがありませんでした。

コレは毎年の恒例らしく、見物人の中には雨傘を逆手に構えて降ってくる飴をゴツンリというヤカラも大勢いました。



アレッ、この項はビノの話ではなかったか、と思うでしょう。遅ればせながら本題に入ります。

カバについては既にこの項で以前お話ししましたね。シャンパンと同じ発泡性のワインで、使われ方も全く同じ。お祝い事全般、当然クリスマス・正月はまたとない出番です。勿論祝い事があるが無かろうが、いつノンダってそれは勝手です。

この時期になるとスーパーの空いた通路はカバとトゥロンとハモン・セラーノに占領されます。値段も一ユーロ位から二百数十ユーロまで。

私達もこれまで、私達なりの節目節目にはコイツをやっつけてきました。あんまり関係ないけどスペインへ来て最初のクリスマス。初めてのお正月。それぞれの誕生日。移住一周年。食事にはチョットいいビノをあけるとして、まずはコイツをポンとあけて乾杯。でも今年はまだ、カバの乾杯はナシ。食事用のビノだけでアルコールは十分のような気がします。ホント我ながら心配になるほど弱くなりました。

この一本は、一年間世話になったコンセルへのファン・カルロスにお歳暮です。

Feliz Navidad です。では皆さんにも宗教抜きで、フェリス・ナビダー(ド)。***
